■e-黒板ニュース（第34号）：命の教育・人つくり（瀬戸南高等学校）

　岡山県にやってきました。　電子情報ボードの活用といえば、岡山県を訪問しなくてはなりません。県全体で早くからその研究と実践、そして普及に努められているからです。岡山県情報教育センターにいらっしゃった平松茂氏は、このニュースでたびたび紹介している昨年度の成果「電子情報ボードを活用した授業実践事例集」CD-ROMに収録されている「見て！見て！ＩＴ」等をまとめられました。そして、今日、訪問した津田先生も、ここ岡山で電子情報ボードの活用と普及にたいへん情熱をもっておられる方です。

　いち早くe-黒板研究会にも入会いただいた津田教頭からご連絡をいただき、「食物」と「オーラルコミュニケーション（英語）」での電子情報ボード活用の授業を見学させていただきました。「農業では命の尊さ・大切さを教える」というお考えで「命の教育・人つくり」に取り組まれている瀬戸南高等学校をレポートします。

今号の目次：
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
１．学校訪問：命の教育・人つくり（瀬戸南高等学校）
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

　お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
　宛先はいずれも　ekokuban@cec.or.jp　です。

　e-黒板研究会のホームページ
http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban
をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

１．学校訪問：命の教育・人つくり（瀬戸南高等学校）

　最初の訪問校は、岡山県立瀬戸南高等学校です。
　岡山駅からＪＲ山陽本線で東に約20分。瀬戸駅から南に約２Kmのところに瀬戸南高等学校があります。

　１０時から「学校評議員会」があるので、それにも参加して欲しいとの、教頭先生からのメールをいただきましたが、１時間以上も早く学校についてしまいました。
　お忙しい中、教頭先生は私と三菱総研の吉村さんを、学校の広い敷地内を案内してくれました。

〇シクラメンと牛舎
　秋晴れの校内。まず最初に案内していただいたのは、シクラメンの温室です。生徒たちが丹精込めて作ったシクラメンが所狭しと並べられていました。素敵な花を咲かせ、いい香りを漂わせていました。
　12月4日は学校で「シクラメン祭り」があるそうです。一鉢1000円で販売するとか。毎年、飛ぶように売れるそうです。学校では、農業教育の一環として、花や鶏肉なども販売するそうです。そのために製造許可と販売許可を持っているとのことでした。
　シクラメン、トマト、ラベンダー、牛さんたち、鶏肉の製造工程、岡山名産のモモ・ブドウなども見せてくださいました。
　牛舎などに有線でケーブルを敷き、ライブカメラが設置されていました。
　愛情を込めて育てた牛を売るという体験、鶏の首を刎ねて食べ物を作るという体験を通じて、命の尊さ・大切さを教えることを、もっとも重要と考えられているということでした。

〇学校学校評議員会
　10時からの学校評議員会にも参加させていただきました。地域の代表者から構成される評議員の方に来ていただいて、瀬戸南高等学校のＩＴ活用の現状を説明したり、意見交換をして、そのあと授業も見学していただくという内容でした。元大学教授や企業の要職に就かれていた方、地域活動の代表者などが評議員をされているそうです。
　「開かれた学校」「地域と共に考える学校」を目指されて活動されています。
私は、瀬戸南高等学校が取り組まれている「教育情報化モデル事業」の背景になっている国の施策などの説明を、少しさせていただきました。

〇家庭科「フードデザイン」の授業
　10:55からの3時間目は、河内美智先生による生活デザイン科の家庭科「フードデザイン」の授業を見学させていただきました。生徒は36名、すべて女生徒でした。河内先生は、情報家庭科も担当されており、ＩＴ活用の授業は経験豊富です。
　単元は「食品の特徴　肉類」です。「肉の流通と部位による特徴」を電子情報ボードを使ってわかりやすく説明します。

・学校や教育委員会のホームページに加えて、「おかやま畜産ひろば」「畜産ＺＯＯ図鑑」「日本食品消費総合センター」などのホームページから授業に有効なコンテンツを探して提示する
・構内の牛舎にいる牛たちの今の様子をライブカメラを通して見る
・トリをさばいている様子のビデオなどでわかりやすく説明する

・問題を出し、生徒たちに電子情報ボードを使って回答をさせる
などの工夫をされていました。
　ＩＴが日常的に授業の中で活用されていることがわかりました。

〇オーラルコミュニケーションの授業
　11:55からの4時間目は、ロシア語の通訳もされるという小林道生先生の授業です。
教室はパソコン教室で行われました。
・フロント型電子情報ボードは、黒板面に設置（２枚のホワイトボードで挟む形）
・プロジェクターは、天井から吊るす天吊り方式
これらは、いずれも津田教頭こだわりの設計です。

　小林先生は、電子情報ボードを活用した授業は去年の12月から取り組まれているということでしたが、いろいろな工夫と努力をされていることがわかりました。
そして、電子情報ボードのいろいろな活用法も見せてくれました。

　よくある英語の「穴埋め問題」では、
①生徒がペンで回答を記入する
②単語の並べ替えをする（オブジェクト機能と呼ばれる図形部品を動かす機能を活用）
③単語の並べ替えをしたあとで、ペンで記入する
　という方法を使われていました。
その他、
・大きな字で見やすい
・色分けの工夫（黒：本文、赤：発音表記、青：日本語訳、青：コメント）
・問題とその説明を提示順にあらかじめ用意
などのさりげないけれども、毎日使っていることをうかがわせる工夫が随所にみられました。

　20分ほどたって、生徒の集中力が途切れそうになったかなという時に、ＣＤと連動させてヒアリングとスピーキングに移りました。そのタイミングも見事でした。
　「先生、（参観者がいいるので）今日はいつもより優しいね」という生徒の声に、小林先生は無言で少し微笑まれました。

〇授業後のインタビュー
　授業が終わった後で、河内先生と小林先生に電子情報ボードの活用についてと、ハード・ソフトの課題等についてインタビューさせていただきました。（この詳細と成果については、年度末の報告書等でレポートする予定です。）

以上

＝＝
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター　　関　幸一
e-黒板ニュース　メールアドレス：　ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会　ホームページ：　http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/
＝＝